

SVP東京へのご応募に際して・・・ ～「Theory of Change(セオリーオブチェンジ)」って、何?～



March 15, 2009

SVP東京 投資委員会メンバー有志

Social Venture Partners Tokyo

はじめに： 必ずお読みください！

<応募に際しての注意事項> 必ずお読みください！

- ①他の応募書類に加えて、“どんな方法でどんな問題の解決をしようとしているのか” (=ここでは、その方法論を「Theory of Change(セオリー・オブ・チェンジ)」と呼んでいます)、をわかりやすく、シンプルに伝わるよう、【1枚】で描いたものをお送りください。
- ②下記のスライドでは、「Theory of Change」(変化の法則)に関して、ご紹介をしています。必ずしもこれが全てではないですが、内容をよく読み、ご参考にさせていただいた上で作成いただければ幸いです。
(※出来るかぎり、例えば、下記スライドでも紹介しています“ループ図”などを使って、どんな構造の問題に取り組んでいるのかも示してください。)
- ③必ず、オリジナルで作成したものを提出してください。
- ④応募書類は電子ファイルのみで受付しています。電子ファイルではない場合には、応募資格を満たしてないとして審査対象となりません！！十分注意してください。
- ⑤電子ファイル様式は「Word」や「パワーポイント」、あるいは手書きしたものをPDF化する等電子ファイルであればどのような様式でもOKです。
- ⑥必ず【1枚(1ページ)】にまとめてください。形式は自由なので各々工夫してみてください！

みなさまの、ご応募、楽しみにお待ちしております！

お題： 必ず、「Theory of Change」をつけてください！

- 1ページで、シンプルに、どんな問題を、どう解決するのかの、あなたの「変化のセオリー(方法論)」をおしえてください！

□ 基本的に、形式は自由ですが、下記の内容を盛り込んで示してください！

(*ページの冒頭には、タイトルを忘れずをお願いしますね！)

□ ① 団体やプログラムの「Theory of Change(TOC)」を、「IF…., then」(もし～なら、～～～が実現できる！)という形式の文章で描いてください。

□ ② そのTOCの解説をしてください。どうやって、あなたのプログラムで問題を解決しますか？

□ ③ このプログラムが対象としている、社会的な背景や問題を説明してください。その際、できるだけ、次ページ以降に示すような、矢印からなる「ループ図」等を使って、その問題のどこにフォーカスをあてて問題の解決に取り組みたいのか、示してください！

*** 以上を1枚(1ページ)にまとめてください。以上の内容を含んだものであれば提出時の電子ファイル形式・表現方法は自由です！**

お題： 必ず、「Theory of Change」をつけてください！

● お題の解説です・・・！

□「①社会や問題の現状をどう理解していて」、「②どのように活動や事業を通じて、問題を解決」し、ビジョンを実現するのか、の**“道筋”**をシンプルに文章で示してください。

□こうした、変化への道筋を示したものを、プログラムの「Theory of Change」(TOC=「変化の法則」)と呼んでいます。

□TOCは、レバレッジポイント(テコを利かせるポイント)を持ち、**「IF・・・, Then」(もし～なら、～となる！)**の形で表せます。

⇒例:ビッグイシュー日本(※)の場合。「もし(if)、ホームレスたちが駅前などで雑誌販売をして売上をあげることができたら、(Then)彼らは経済的な収入とともに、社会の中に居場所と失っていた尊厳を回復し、自立への一歩を踏むことができる」ということになります。

□また、「①社会や問題の現状」は、どういう仕組みで、この問題が生まれているのか、今おきているサイクルを示してください。次ページ以降で示す、矢印の「ループ図」のように、図解すると、分かりやすくなります！

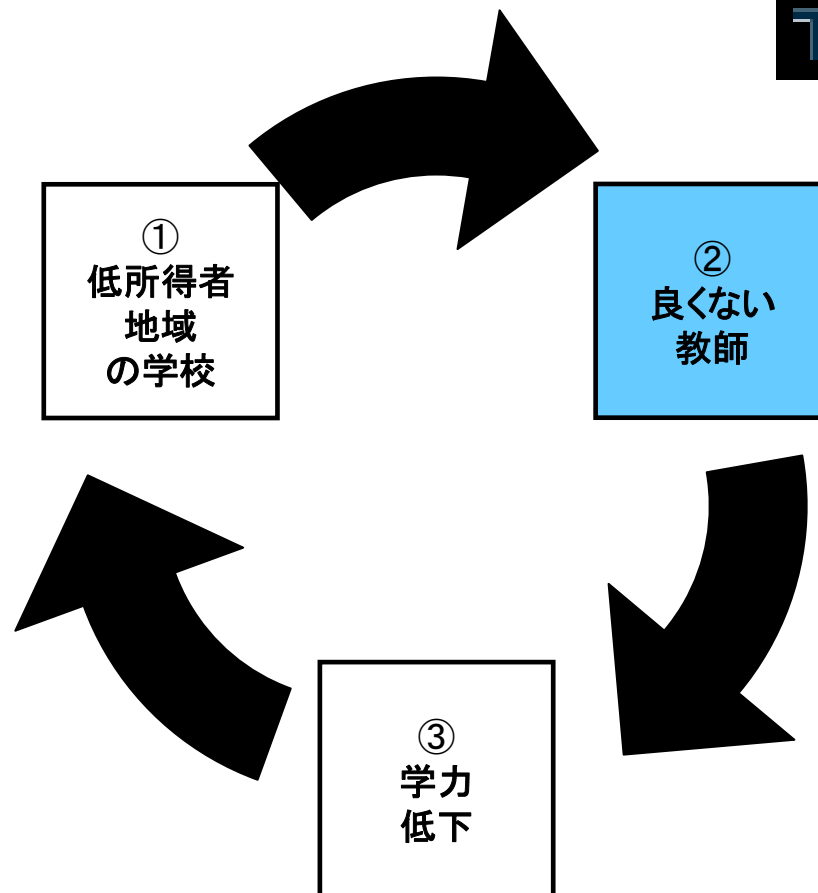
※ 詳細はこちらへ <http://www.bigissue.jp/index.html>

あなたの「変化の法則」は？ ～事例

“Theory of Change” ～問題が生まれる仕組みを見せる！

For example **Teach For America**

TEACHFORAMERICA



(←レバレッジポイント！！)

低所得層の地域に住むアメリカの若者達はよい教師による教育を受けることができない。結果として学力が低下し、将来的に貧困を脱することが難しい。そこで、TFAでは「良くない教師」を問題解決のためのレバレッジ(テコを入れる)ポイントと考えて低所得層地域の学校に、優秀な大学の卒業生を教師として2年間派遣するプログラムを行っている。

●**TOC:【TFAの“変化の法則”】**

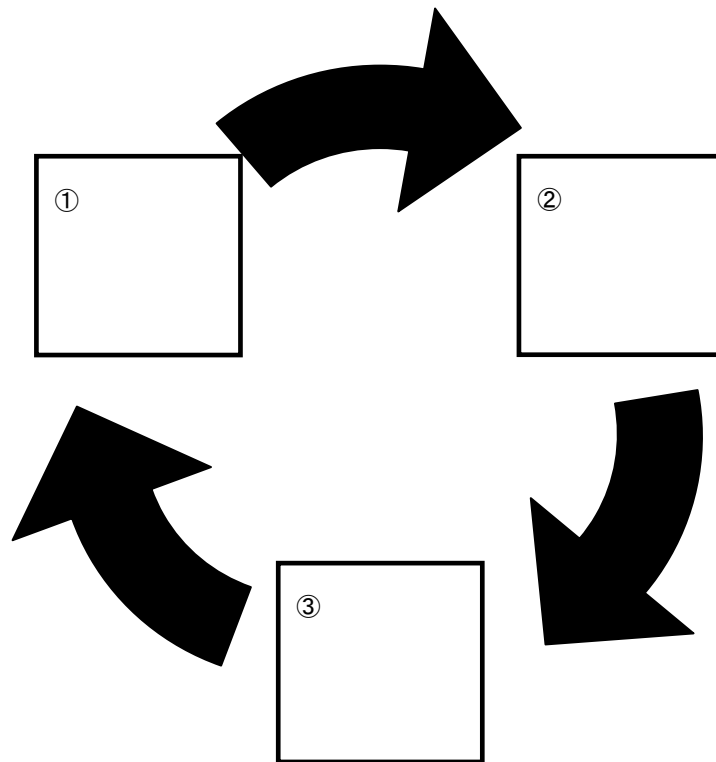
⇒「もし、貧困層の学校に優秀な若い先生たちがたくさん入ってきたら、(then)子供たちの学力があがりよいキャリアが築け、貧困から抜け出せる！！」

SVP Work Sheet ~自分のケースで考えよう！

プロジェクトのタイトル:

•負のスパイラル（現在の問題の構造）

<図>



注:必ずしも、この形式でなくとも結構です!また、図の①~③は 3つである必要はありません

←レバレッジポイント!!

<文>

【わたしのTheory of Change】

⇒「もし～ なら、(Then) ……!!」

ケース：ワールドキャンパスの場合

■ 下記は、第4回投資委員会で投資・協働先となった、「NPO法人ワールドキャンパス・インターナショナル(WCI)」がプレゼンテーションした、彼らのTOCです。



もし、日本の地域が
世界の若者が集まる「**キャンパス**」になったら……、

- ・ 地域の人たちは、地域の価値を再発見し、誇りと自立・自律心を取り戻す
- ・ 若者たちは、日本を立体的に理解して日本のサポーターになり、多様性を楽しめる
自立した個人＝“市民”になる

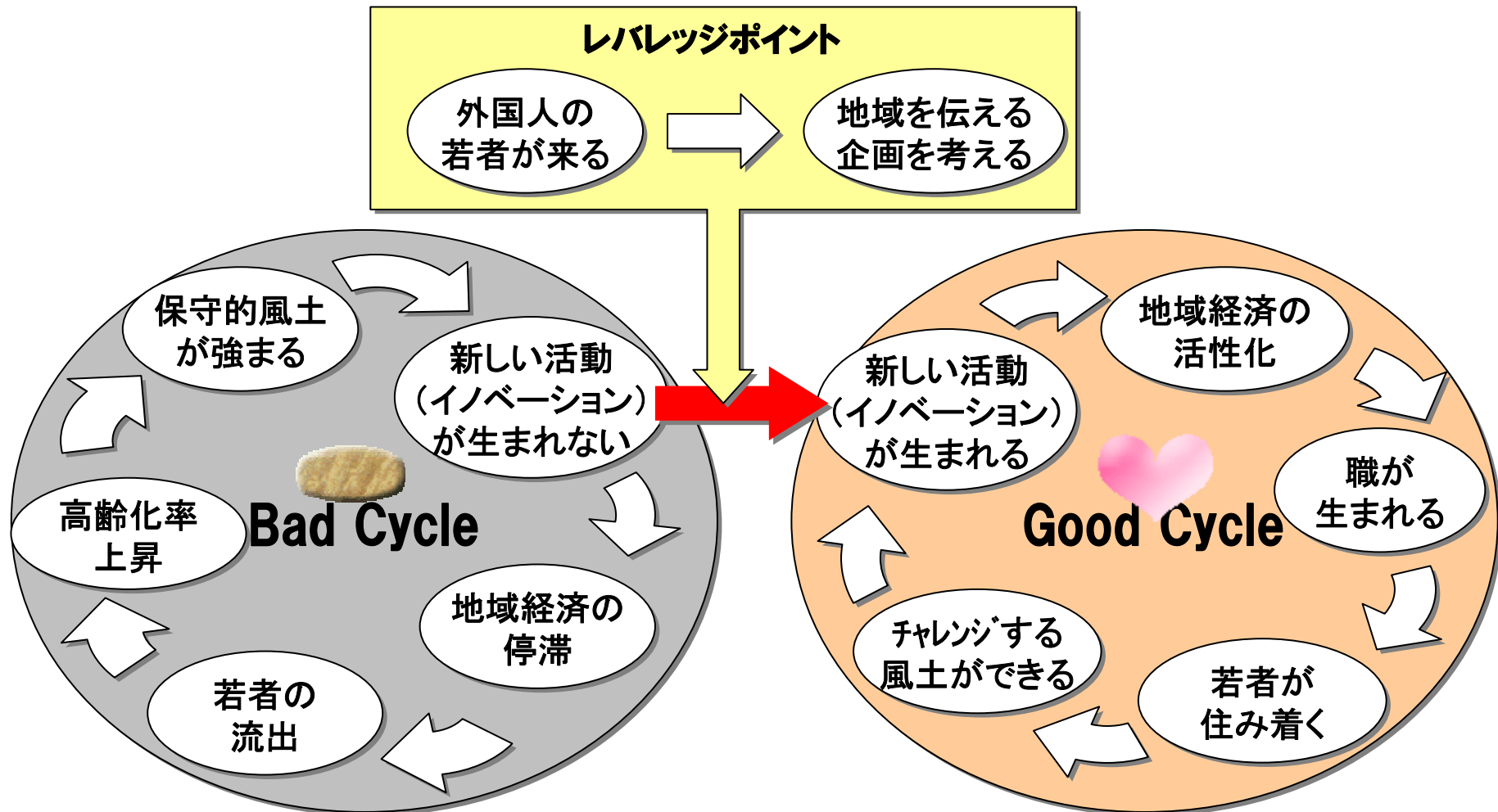


ケース：ワールドキャンパスの場合。

出典：SVP東京「第4回投資・協働先募集」2次審査

NPO法人ワールドキャンパス・インターナショナルのプレゼン資料より

Bad CycleからGood Cycleへ



(参考)「セオリー・オブ・チェンジ」って? ~もう少し詳しく...♪

“セオリー・オブ・チェンジ”(「変化の法則」とは?

- 変化を生み出すための方法論
- 団体として持っている問題解決へのアプローチ(方法論)を言語化したもの (社会イノベーションの拡散に関する事例研究より)
- Theory of Change.orgより
a Theory of Change describes the types of interventions (a single program or a comprehensive community initiative) that bring about the outcomes depicted in the pathway of a change map.

なぜ「変化の法則」(TOC)を考えるのが大事なの?

今、がんばっている努力が、実を結ぶように...

現場で動きながら、どこが問題解決の「レバレッジ・ポイント」(効果的な“ツボ”)になるのか? 今掛けているお金やがんばりが、結果につながるためのポイントなのか? 社会への投資という視点でいえば、1万円のお金が、あなたの大切な人生の時間が、より効果的に、「どんな方法論で」「どういうメカニズム」で結果につながりそうなのか、走りながらも、考えることは大切です。

SVP東京でも、大切な、投資協働先の努力と、ぼくらの努力とで結果につながるよう、一緒に試行錯誤を重ねていきたいですし、こうした「投資」の視点は大事だと考えています。

TOCについてもっと深く知りたい方は...

「システム思考」、「Theory of Change」などのキーワードでぜひ検索もしてみてください。
記なども参考に なります!

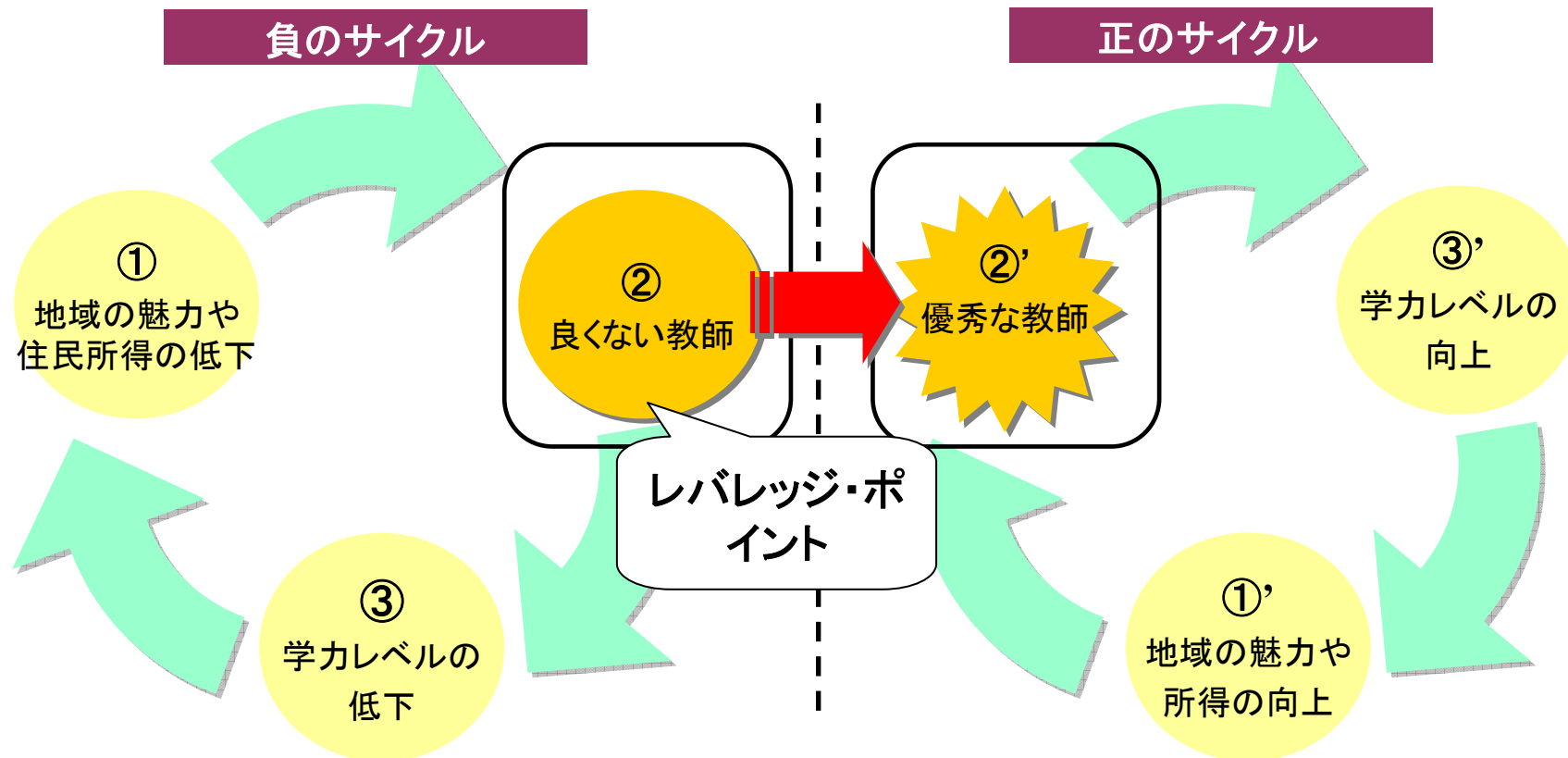
下

- 2007年度 SFC研究所プロジェクト補助報告書『社会イノベーションの拡散に関する事例研究』 井上英之ほか (<http://www.kri.sfc.keio.ac.jp/report/project/2007/5/5.html>)
- Theory of Change.org (<http://www.theoryofchange.org/>) ※英語です
- 『なぜあの人の解決策はいつもうまくいくのか?—小さな力で大きく動かす!システム思考の上手な使い方』 枝廣 淳子, 小田 理一郎 (著)

(参考2) 「セオリー・オブ・チェンジ」って?(2)

今の問題の構造の理解して、レバレッジ・ポイントを見つける+
そこに絞って、問題を起こす社会の仕組み、そのものを変える発想です。

TEACH FOR AMERICAの場合(低所得者地域の問題解決モデル)



■Teach For Americaでは、貧困地域の学校に全米の優良大学から優秀な学生をリクルート、2年間の期限付きで、学校で活躍してもらうプログラムを提供しています。

(参考3) Teach For America とは?

- 1989年米国プリンストン大学の学生Wendy Kopp(ウエンディ・コップ)が発案、全米の貧しい地域の子供達が直面している教育不平等を解消し、また彼ら自身も違った世界で意義のある仕事をしたいと考え、それを具体化させた活動が始まりと言われている。
- アイビーリーグ等、米国内でもトップクラスの学生層が通う大学の成績優秀者が卒業後の2年間、貧困地区にある公立の学力底辺小中校で教師になるというプログラムを提供するNPO団体。2005年度は3,500名のメンバーが全米22地域で、1,000校に在籍し教えている。またTFAプログラム出身者が運営する各種学校は2007年9月時点で282を越えている。
- 学校1校当たり数名派遣が多く、毎年同数の学生展開を行っているが、2010年には4,000名にまで増加させたい意向を持っているとのこと。またプログラム規模(派遣講師数3500)を倍増させる計画を2005年に発表している。
- TFAプログラム講師は赴任先では他教員と平等に遇されており、2年間の教師年収は2万5000ドル(約280万円)。
- 2007年ビジネスウィーク誌の調査によるとアメリカの学部学生就職先人気ランキング第10位
- デロイトアンドトウシュ(会計事務所)やグーグル、GE、JPモルガン等がTFAと提携し、採用内定学生が就業前の2年間TFAプログラムに参加することを認めている。また数多くの大企業から何百万ドルもの寄付金が提供されていると言われる。